

の野生動物がはぐくまれている。開発を否定するわけでないし、野生動物による農作物の被害に目をつぶる

わけではないが、自然保護にも力をいれていかねばならないと思う。

稲子沢本流

一九八五年九月一日

送電線の管理のため刈り払いされた所を鳩峰牧場に向けて下降。牧場の途中より沢に入る。下降開始点は、牧場の動物達の為の水呑み場であった。

二〇〇(一四・一五)

牧場を左手にみながらほとんど下降する。牧場の端あたりで稲子沢の本流と合流し、更に下降を続ける。そのうち沢は明るくなり、何の変化もないままに二俣となり、本日の予定の行動を終える。(記・大西真一)

林檎淀沢

一九八五年九月一日

車をデポすることにしていた稲子部落の先、杉沢橋に着いた所で、ニホンザルの群れに会った。ゆうゆうと道路を横切って樹林の中に消えていったが、珍しいものを見せてもらい感激。

杉沢橋のもとに車をデポし、沢に下って、八時三〇分遡行開始。沢は所々にナメ床状のものがポツリ、ポツリとあるだけで、平凡な河原歩きが続く。そして、我々に先行するかのよう釣人の足跡がしっかりと



鳩峰峠

ついている。

沢に入って約一時間で二俣となる。林檎淀沢を遡行して稲子沢本流を下降することにして、まず林檎淀沢へ。

一〇分といかないうちに四びの滝がかかる。直登で突破。さらにその先に四び。これも直登で突破する。

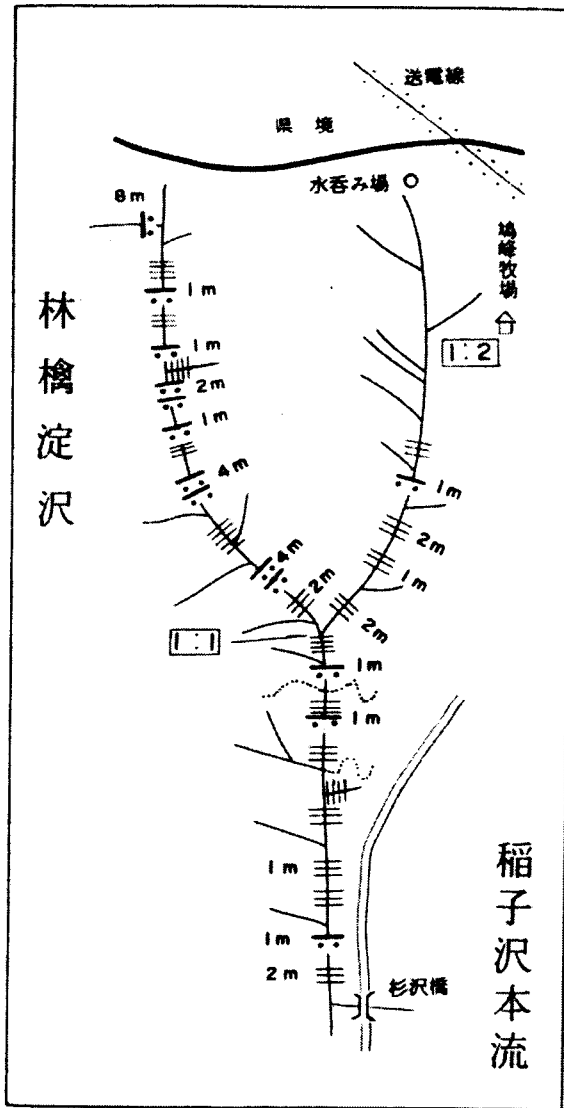
これ以降は、ナメと一〜二びの小滝が適当にある。進むにつれて沢の勾

配はどんどん急になり、沢幅も狭く

なってくる。源頭部に近いあたりで、右岸から八びの滝が落ちていた。

一一時二〇分、沢の形態もはっきりしなくなったので遡行終了とし、ヤブこぎ開始。一五分で稜線に飛び出す。

稜線で昼食をとった後、稜線上を北に向かってヤブこぎ開始。この稜



林檎淀沢の遡行

線は、地図に小道記号があるのに、ほんの所々に面影があるだけで、距離にして一キロ程の間はまったくのヤブこぎである。一時間程こいだ所で送電線の下に出て、ようやくヤブこぎから解放される。

(記・大西真二)

「タイム」 遡行開始(八:三〇) ↓ 二俣(九:二五) ↓ 終了(一一:二〇) ↓ 稜線(一一:三五) ↓ 送電線下(一二:四〇)